第８回

湯﨑知事と「ひろしまの未来を語る」（熊野町）

と　き 令和３年４月２１日（水）

ところ 熊野町役場３階 会議室

目次頁

開会 2

知事ビジョン説明 2

参加者① 7

参加者② 8

参加者③ 9

参加者④ 10

参加者⑤ 11

参加者⑥ 11

町長コメント 15

フリートーク 15

閉会 19

広 島 県

開　　会

司　　会：　皆様，お待たせいたしました。

ただいまから「安心▹誇り▹挑戦 ひろしまビジョン」意見交換会，「ひろしまの未来を語るin熊野」を開催いたします。

はじめに，本日御参加の皆様を御紹介いたします。

湯﨑知事の右手側から田中久也さんです。

田　　中：　田中です。

司　　会：　佛圓悦子さんです。

佛　　圓：　よろしくお願いいたします。

司　　会：　民法小雪さんです。

民　　法：　民法小雪です。よろしくお願いいたします。

司　　会：　林諒太さんです。

林　　：　林です。よろしくお願いします。

司　　会：　梶山成さんです。

梶　　山：　梶山です。よろしくお願いします。

司　　会：　片川統博さんです。

片　　川：　片川と申します。よろしくお願いします。

司　　会：　また本日は熊野町長，三村裕史様。

三村町長：　皆さんよろしくお願いいたします。

司　　会：　広島県議会議員，伊藤真由美様。

伊　　藤：　今日はよろしくお願いいたします。

司　　会：　高田稔様。

高　　田：　こんばんは。よろしくお願いします。

司　　会：　にも御出席をいただいております。

お忙しい中，誠にありがとうございます。

この会の模様は，ユーチューブでライブ配信を行っております。

通信回線の状況によっては，画像が乱れることもありますので御承知ください。

また，県のフェイスブックを通じて，ライブ配信を御覧の皆様からの御意見や感想を募集しておりますので，フェイスブックを御利用の皆様は，ぜひ広島県の公式アカウントにコメントいただければと思います。

意見交換

司　　会：　続きまして，本日の意見交換いただくテーマであります「安心▹誇り▹挑戦 ひろしまビジョン」の説明，その後の意見交換に入りますが，ここからは湯﨑知事に進行役をお願いしたいと思います。

湯﨑知事どうぞよろしくお願いいたします。

湯崎知事：　皆様こんばんは。

今日は大変お忙しい中，お集まりをいただきまして本当にありがとうございます。

この７時という時間は，いろいろなお仕事とか終わってからという設定なんですけれど，晩ご飯も食べられずに，あるいは召し上がった方いらっしゃるかもしれませんけれど，お腹が空く時間じゃないかと思いますけれど，本当にそういう中で御参加いただいてありがとうございます。

説明もあったと思いますけれど，今ウェブでもリアルタイムで中継をしておりますので，ウェブで御参加の皆様も本当にありがとうございます。

それで今日のテーマなんですけれども,「安心▹誇り▹挑戦 ひろしまビジョン」という，この広島県の10年後の姿，それから，そこの実現に向けた方向性を示した新たな総合計画ですが，これについてでございます。

これは昨年の10月に策定をいたしました。

今年の４月から，今年度から，この計画に基づいて県の施策を展開しているということであります。

もちろん，この前には，その前のビジョンがありまして，10年間たったところで昨年度，今年の３月に終了したということになっておりますが，今，新しいビジョンになっているということですね。

このビジョンによる新たな広島県づくりというのを，県民の皆様と一緒に進めていきたいと考えておりまして，そのために皆様の率直な御意見をお伺いして，意見交換させていただくということを目的に，この会をやらせていただいているというところです。

皆さんの，そういった御意見を踏まえて，今後の施策の展開につなげていきたいと考えているところでございます。

はじめに私からビジョンのポイントについて，御説明をさせていただきます。

画面も御覧いただければと思いますけれども，まずビジョンの背景としてありますのが，やはり非常に不透明な，この時代というところがあります。

まず例えば，いろいろな課題が言われていますけれども，人口減少の問題，これなんかも，この前のビジョンのときには今後，人口減っていきますよというようなことを挙げていたわけですが，このビジョンでは，もう既に大幅な人口減少が始まっていますと現実化しているわけですね。

それからグローバル社会というのも，どんどん変化をしてきていますし，デジタル技術が今はすごい勢いで変わってきて，我々の暮らしとか，あるいは産業，社会の在り方も変えようとしています。

それからコロナで浮き彫りになりました格差，これは世界的にも問題になっていますけれども，こういったこと，あるいは熊野も非常に厳しい経験をしました大きな災害，これが頻発をしております。

そして，もちろんコロナ。

こういったいろいろな，非常に先を見通すのが難しい時代になっているということ，その中でもこういったことを踏まえて，どうするのかというのを考えていこうということになっています。

そして，そういう中で今回のビジョンでは，まず30年後にどんな広島県になっていたいかという，あるべき姿というのを想定いたしまして，あるいは構想いたしまして，30年後なので,あまりすごく具体的には,なかなか言いづらいものがあるんですけれども，こうなっていたいよねというものがあって，30年後にそうなるためには，10年後にはどうなっていなきゃいけないだろうというのを，もうちょっと具体的に，10年後なのでちょっと見えるという感じがしますので，もうちょっと具体的に，その10年後の目指す姿ということをつくりまして，そこにたどり着くためにはどんなことをしなければいけないのかということを，このビジョンの中で示しているものでございます。

基本的な理念としては，将来にわたって「広島に生まれ，育ち，住み，働いて良かった」と心から思える広島県の実現という風になっているわけでありますけれども，そこにおける目指す姿として，県民お一人お一人が「安心」の土台と「誇り」によって，夢や希望に「挑戦」をしていますと，そして「仕事も暮らしも。里もまちも。それぞれの欲張りなライフスタイルの実現」，これを目指す姿として掲げています。

ちなみに，この前のビジョンでも欲張りなライフスタイルの実現というのを言っていまして，特にこれはどういう意味か，なんで欲張りかというと，特に前のビジョンの後半にワークライフバランスということを非常に意識されまして，例えば多様な働き方とか，あるいは子育てとか，あるいは介護のためにもっと暮らしに時間を振り向けなきゃいけないんじゃないかという，社会的な要請が強まってきたと思いますけれども，そういう中で通常ワークライフバランスというと，これまで仕事60で暮らし40だったので，仕事しすぎだから仕事50暮らし50にしましょう,働きすぎですよね,特に日本人はって，そんなイメージもあったと思うんですけれど，広島県の場合にはそうじゃなくて，仕事60暮らし40だったら，仕事60暮らし60で120にしようじゃないかと，でも24時間は変わらないので，それを実際どうやったら実現できるのかということを考えましょう。

ですから仕事を諦めるとか，暮らしを犠牲にするとかということではなくて，どちらも希望がかなうような，そういった社会を目指していこうということで，どちらもということなので欲張りなということなんですが，それは引き継ぎつつ「里もまちも。」，いわゆる中山間地域とか田舎であれ，あるいは都市部であれ，豊かな人生を送れる，自分の希望がかなうようになる，そういうことを目指しているわけです。

ポイントが幾つかございます。

今も申し上げた「安心」の土台と「誇り」の高まりによって，夢や希望に「挑戦」をしていく。

最終的には，まず安心をつくる，それから誇りを高める，それによって最終的には挑戦をしていこう，県民の皆様が何かに取り組む，一歩前に進む，そういった取組を支え

ていくことができるようにしようというもの。
　それから「適散・適集社会」のフロントランナー，これは，また後で出てきますけれども，コロナによって過密というのが非常に大きな問題であるということが，これも浮き彫りになってきました。
　都市に，いわゆる三密状態をつくるのが効率的だという，効率的な産業とか働き方の在り方だということで，それがどんどん追及されてきたわけですけれども，どうもそうじゃないということで，むしろ適切な分散が要るんじゃないかと。
　ただ，集中もないと，にぎわいだとか，あるいはイノベーションというのも起きないので，適切な集中，過密じゃないものも必要だろうというようなこと，よく見ると広島県ってそういうところだよねという風に，社会的条件や地理的条件がありますので，新しい社会像，日本全体，あるいは世界全体で目指していこうというような社会像，「適散・適集」という風に言って，そのフロントランナーになろうという考え方，これがポイントの一つです。
　それから，もう一つが，全ての施策を貫く３つの視点ということで，これはいろいろな施策分野，後でまた，これも出てきますけれども，教育だとか福祉だとか，いろいろなものがありますけれども，そういう中で全てを貫くデジタルトランスフォーメーションの推進，それから「ひろしまブランドの強化」，そして生涯にわたる人材育成，こういったことを貫きながら施策を進めていきましょうと考えております。
　もう少し詳しく御説明しますと，まず安心の土台というところですけれども，今の時代いろいろな不安要素が多いですね。
　健康の問題，もちろんありますし，コロナはもちろん今，県民の皆様にすごく大きな不安を与えていると思いますが，それだけではなくて年金の話だとか，あるいは介護とかしっかり受けられるんだろうかとか，医療って地域においてどうなるんだろうとか，そういったような不安，いろいろあるわけですけれども，こういった不安を軽減していって安心をつくっていくということが，やはりまず必要なことじゃないだろうかと。
　そのためにはいろいろなイノベーションを起こして，新しいやり方，新しい進め方，こういったことで安心をつくっていくとか，あるいはもちろんしっかりとセーフティーネットを構築していきましょう，こんなことが必要だろうということで，まず安心の土台をつくることを取り組もうとしております。
　それから，その上に，更に誇りというものがあると思っていまして，熊野の誇り，筆とか，その地域においていろいろな，地域の誇りになるものがたくさんあると思います。
　広島県は瀬戸内海それから中国山地に囲まれて海も山も非常に豊かですし，そこで生まれる素晴らしい，おいしいものもたくさんあります。
　あるいは産業も，今の，この筆，伝統産業ですけれども，そういった伝統的な産業，西条に行けばお酒もあるし，仁方に「やすり」もあると，それに加えて，もちろん最先端の産業，自動車産業をはじめとして産業も集積している。
　こういった本県の強みというものを，更に高めていって誇りを持って，県民の皆様が誇りを持てるようにしていこう，それが挑戦の原動力になるんじゃないかということで，最後，挑戦にいって，安心の土台と誇りの高まりによって，県民のお一人お一人が持っている夢だとか希望を諦めることなく，一歩前へ踏み出していく，そういった後押しをしていこうと，それがお一人お一人の，先ほど申し上げたような欲張りなライフスタイルにつながっていくんじゃないかと考えております。
　その欲張りの，もう一つが，この「里もまちも。」というところで，先ほども申し上げたような，どこに住んでいても挑戦できる，特長を生かしたような地域づくりというのも進めていこうと考えておりまして，中四国の中心になるような，広島市であるとか，あるいは備後地域の中心になるような福山といったような都市，しっかりと魅力がある，人を引きつけるような適切な集中の部分ですね，これは，それをつくっていくとか，そして豊かな自然がある中山間地域，ここも持続可能な，そして魅力的な地域にしていこう，それから都市と中山間地域をつなぐような場所，熊野町もそういうところじゃないかと思いますけれども，利便性の高い，いろいろな日常の機能が身近にある，あるいはちょっと足を延ばせば，より集積した機能がある，そういう集約型の都市構造，こういったものをつくって，暮らしやすい便利なまちをつくっていこう，そういう風に考えています。
　適散・適集というのは，先ほど触れましたコロナが３密というのを，まさに大きくヒットしましたですね。

これまでは密集とか密接とか密閉と言うと，大きな，東京にあるようなビルとか，まさに１つのビルに何千人も働いて，それが１つの空間で密集して密閉された中にいたという，ところが，これは非常にリスクも高いし，本当に人間的なのかというような疑問も生まれてきたわけですね。

なんでこんな混んだ電車で１時間とか１時間半とかかけて，通勤時間を過ごさなきゃいけないのかとか，そんな問題が改めて浮き彫りになってきた，それは，やはり東京一極集中の問題だとかありましたし，どうもそういう中でデジタルもうまく使えていないんじゃないか，日本はというようなことが分かってきたわけですね。

そういう中で，もう一度よく見直してみると，人と人との距離とか，分散しているというようなこと，ここにも価値があるなと。

特に，それが何をもたらすかというと，オープンで開放的で，そして快適な環境，これがもっと人間らしいし，リスクも少なくなるんじゃないか，それから分散したら，いろいろ非効率になるじゃないかというところが，これはデジタルの技術で乗り越えることができるんじゃないかと，空間的な制約とか時間的な制約をデジタルが乗り越えてくれる。

一方で，そうはいってもにぎわい，あるいは人が集まって顔を合わせて議論することによって生まれる，新しい価値というのも，これも要るよね，そういう意味で過度に集積とかしない適切な集中，一方で，まさにこれまで集中しすぎてきたものを適切に分散していく，こういったことが次の時代の求められる社会像なんだろうと。

これは日本だけに関わらず，世界的にもそうなんだと思います。

日本は特に集中しているわけですけれども，東京に，それを分散していく，一方で集中も適切なものをつくっていく，それが「適散・適集社会」というものになっていくんじゃないかということです。

それを広島県に当てはめてみると，広島は本当に，まちのすぐ近くに豊かな自然がある，分散の条件がすごく整っている，まちには一定の集積があって，かといって東京のように過密すぎないということですね。

今のコロナ禍でも驚きますよね，渋谷とか新宿，めちゃくちゃ混んでいますよね，あれだけ混んでいますけれど，いつも混んでいる東京と比べると随分空いているなということで，どうもそれは，ちょっとやはり混みすぎなんだろうなということで，広島ぐらいがちょうどいいということですね。

そこにデジタルを加えていくと，本当に素晴らしい，新しい社会の在り方が実現できるんじゃないかと考えているところでありまして，それを実現していこうと思っています。

そして，全ての施策を貫く３つの視点ということで，デジタルトランスフォーメーション，DXの推進というのがあります。

デジタル技術というのは，もうとにかく我々が好むと好まざると，社会の中へ入ってくるわけですね。

世界でデジタル技術を使わないで何かを行うということは，もうなくなってきているわけですし，また逆に，それをうまく使えば，いろいろな課題の解決につながっていく。

先ほどの適散・適集を実現する上でも，時間・空間を乗り越える上でデジタルというのは非常に重要だということで，デジタルトランスフォーメーションを，あらゆる分野で進めていくということが重要だと考えています。

それから「ひろしまブランド」，これは何か物ということじゃないんですね，ひろしまブランドと言ったときに，例えばこれ，今日，お水，志和の天然水ということで，東広島のお水を置いて，こういうブランドという意味ではなくて，広島ってどんなところ，どんな価値を提供してくれるのという，そういう地域のイメージですね。

例えば分かりやすく言うと，福岡っておいしいものがあるよねとか，そういうのがありますよね。

そういう広島のイメージ，地域としてのイメージ，それを強化していく，それによって県内外の人からの共感を得て，そしてもちろん国外の人の共感も得て，例えば広島に住んでみようとか，あるいは広島に遊びに行こうとか，そしてもちろん我々自身が，広島ってやはりいいところだよね，住んでいてうれしいなという風に思う，そういうことを，いろいろな分野において実現していく。

それから全ての，支えているのは，やはり人なので，しっかりと人材育成をしていきましょうと。

もちろんこれは，人材育成というのは決して学校の間だけの話ではなくて，今，人生100年時代という中で生涯にわたって，あるいはいろいろな役割を変わっていくかもしれない，そういう中で人材育成というのをし続けなければいけないということで，そういった観点からの施策を進めていこうと考えています。

施策領域というのは，こちらにあるように17の分野に分かれて策定をしておりまして，それぞれの目標とする指標を定めています。

少し具体的に見ると，子供・子育てなどでは，「全ての家庭を妊娠期から子育て期まで切れ目なく見守って，支援するネウボラの拠点が全市町に設置されている。」うんぬんという風になっていまして，ここでは10年後にはネウボラが全市町にありますと，今はまだ全市町にないんですね，ネウボラというのが。

ネウボラが何かというのは，ちょっとここでは説明を割愛させていただきますけれども，子育てをサポートする，そういう拠点ですけれども，それに基づいて，目標とする指標としては，安心して妊娠・出産・子育てができると思う人の割合というのが，現状８割で割と高いんですけれども，それを10年後には91％まで持っていこうと。

すごく細かいですよね，90％じゃなくて91％ですから，かなり具体的に定めてあるわけですが，それに伴ういろいろな活動指標だとか見ていく指標というのは，下にKPIという風に挙げてあります。

こういう風に目指す姿と，それから目標とする指標と，様々な展開していく上での，やはり指標，KPIと言われていますけれども，こういったものを定めています。

教育なんかでも同じように，「学びの変革」を定着していきますというようなことが目指す姿になっていまして，そのための指標が定められている。

あるいは観光もそうですね，「ひろしまブランド」や「瀬戸内ブランド」の認知が高まっているというようなことで，目標としては観光消費額を令和元年度4,400億円あるのを，これを8,000億円，倍近く持っていきましょうというようなこととか，お客様，観光客，来ていただいた方の満足度，これは73％，令和元年ですけれども，これを90％に高めていきましょう，こんなことを定めています。

こういう風に17の分野で，それぞれ定められているわけですけれども，最後，まとめとしてありますのは，県内のどこに住んでいても，県民の皆様お一人お一人が，夢や希望に挑戦できる広島県づくりを推進していくということですが，非常に大事なことは，これを実現するのは実は県民の皆様お一人お一人の，お力なんですね。

というのは，つまり何を言っているかって，行政じゃないってことですよ。

広島県を形づくっているのは行政ではなくて，お一人お一人の個人であり，また活動している企業だったりとか，あるいはNPOとか，そういった団体，そういった皆さんが活動して広島県というのをつくっているわけですね。

分かりやすく言うと，例えば広島県の県内総生産というのは11兆円ぐらいあるわけですけれども，行政が11兆円の生産をしているわけではありません。

元気な経済っていったら，広島県庁とか，あるいは熊野町が何かをしたら11兆円が増えるわけではなくて，県内の企業がいろいろな工夫をして，新しいイノベーションを起こしてはじめて，この11兆円が増えていくということなので，行政というのはそれを後押しする役割にあるということであります。

それは，その他の分野についても全て言えることでありまして，行政がいろいろなリードをしたりとかということもありますけれども，基本的には，その分野で活動されている県民の皆様を後押ししていくということ，それが一歩前へ踏み出す人が多ければ多いほど，その姿の実現に近づいていくという，そういうことですね。

なので，これは一緒に，県民の皆様と一緒に広島県づくりを推進しましょうという風に書いてあるのは，まさにそういう意味でございます。

ということで，新たなビジョンの御説明でございましたけれども，ここからは参加者の皆様から，お一人ずつ御発言をお願いしていきたいと思います。

お一人ずつ５分程度ということでお願いいたします。

皆様全員の発言が一巡しましたら，残りの時間で，全員で意見交換をしていきたいと思いますので，よろしくお願いします。

発言の順番は，あらかじめお願いしていると思いますので，御発言のときにはお座りになったままでお話をいただければと思います。

それでは最初に田中さんからお願いできますでしょうか。

参加者①

田　　中：　それでは簡単に概略の自己紹介と，今いろいろやっている地域の活動について，防災と，その活動の基本的なことについて，ちょっとお話しします。

自己紹介ですが，先ほど言いましたように田中久也と申します。

熊野町の川角に住んでいます。

10年前に，これが平成24年に川角地区というと，大体，熊野町で1,000世帯3,000人の地域の自治会長を，約６年くらいやりました。

そのときに，その中に本城地区というのがありまして，そこが170世帯で300名の，そこの区長も兼ねてやっていました。

その区長は今もやっていますということで，地域の活動をまだ，今77歳ですが，まだ頑張ってやっていますということです。

防災なんですが，平成26年に熊野町で初めて自主防災組織を立ちあげまして，平成27年には夜間避難訓練もやりました。

ただし皆さん御存知のように，平成30年に豪雨災害で大切な12名の命を失うということがありました。

それで防災ってなんやということを，もう一遍基本に返ろうねという話をしたり，災害が起きたことを，どう皆さんに知らせて，また将来につなげていくかということで，そういう作業もかなりしました。

今，それで取り組んでいるのは，大きな区域じゃなくて，もっと地元に，本当に小さい区で区切って，そこの防災はどうかねって考えないと，大きな一般的なことでは防災にならないということで，私が住んでいる本城団地を例に話しますが，まず自助。

皆さん，自助っていっぱい聞かれますよね，何するんかと。

私が，まず皆さんとやっているのは，各家庭に毎年，避難マニュアルを作っている。

どうして家庭かというと，学校に行っとる子もおるし，どこ行っとる，家へずっとおるわけないわけですよ。

だから今，避難は，そこから出ていく避難ばかりで，そうじゃないということで，各家庭ごとにきちっと連絡先，誰ができる，マニュアルを毎年作っている，ということで，今，お願いします。

それと，もう一つは，ここの地区で過去どういう災害が起きたとか，危険性があるかという情報を必ずダイレクトに出します。

だから逃げるときは，ここ危ないよ，気をつけてくれよというのが分かるようにしている。

だから，もっと本当にその地区でどうかねというところまで突っ込まないと，なかなか防災できないというので，そこを今やっています。

それと，もう一つは，そういうことを継続的にやっていく機運，体制，人材育成が一番問題ですよ，やはり。

こういう活動をずっと継続するための人を育てること，それは地区で育てると同時に，町とか県とかで，今データとかなんかあれば，みなええですよというて，そうじゃない。

やはり，こういう生のいろいろなことを経験した人というのは，防災でものすごく大事です。

だから人事異動，ころころ替えずに，防災の人はちょっと長めに，育ってほしいというのが私のお願いです。

それと，もう一つ大事なのは近所ですよ。

共助というのはちょっと大きいんですが，まずは隣近所。

マニュアルに隣の人，知っていますよね，それを書いてくださいねって言っています。

声が掛けられる人いますかといった，全部そういうことをやっています。

最後は助かるのは，隣の人がおるか，おらんかで，助かるか助からんかというのがいっぱいありますということで，そういうことをやっています。

ということで，防災についてはもう少し，ぐっと現場に近い，そういうことをしっかりやりたいなと。

地域の活動をずっと長いことやって何が大事かというと，防災も一緒なんですよ。

やはり事実を把握していなかったら何も役に立たんということで，それをやはり原点にいろいろなことを考えないと，PDCA回せっていろいろ言いますが，Pはプランですよね，プランを立てるときに事実をちゃんとつかんで大事をとる。

じゃけえ，これをSee，Think，いうんです，その前にPDCAがある。
だから，そこの最初を間違えたら駄目ですね。
もう一つ，ちょっとハザードマップの件で聞いたんじゃけど，ハザードマップを皆さんが全部読めていますかといったときに，意外とできないの，何かというたら，高校生の人と話したときに，ハザードマップで自分の家をチェックするんだよ，分からん人が多いんです。
なんでかいうたら，田中さん古いねって，スマホでこういったら，行きたいところってすぐ分かるんじゃ，ハザードマップ見ても分からんいうて。
ということは，ハザードマップは分かってもらわんと，何のために作ったか分からんです。
じゃけん，Check，Actionがつながらんのですね。
だから，そういうところも，ちょっとよく考えてほしいなということで，やはり本当に事実のあった現場は，やはりよく見て，今回もそうですね，こういうかたちで呼んでもらえるということは，要らんことも言いますが聞いてもらえるんだから，それも大事だと思います。
だから今からいろいろなプランとか，いろいろあると思いますが，まず土台もしっかり，ぜひ今から，私らも協力しますので，よろしくお願いします。以上です。

湯 﨑 知 事： ありがとうございました。
災害について具体的な取組，まさに本当に現場に，現実，事実に基づく取組が重要だというお話，そしてそれを継続するためには人材育成が重要だというお話をいただきました。
ありがとうございます。
それでは続いて佛圓さん，お願いできますでしょうか。

参加者②

佛　　圓： 失礼いたします。
私は，この熊野町で生まれて育って，そして現在，熊野町で司法書士として働いております佛圓悦子と申します。
この度は，このような貴重な機会を与えていただき本当にありがとうございました。
本日はどうぞよろしくお願いいたします。
先ほどから知事もずっと言われているように，誇りを持って挑戦していくためには，安心の土台が本当に必要だと思います。
ところが，ここ数年，本当に全世界的にまさかと思うような出来事が相次いで起こって，まさに先ほども言われたような先行き不透明な時代になってしまい，革命的に何か世の中が変わっていっているなというのを，今，仕事をしながらも実感しております。
そのような中で,もうライフスタイルも働き方も意識も,今までのままではいけない，どうしても変えざるを得ないような状況になってきています。
私自身，個人で事業しておりますので，このコロナ禍では感染対策とか，できることは自分なりにやってきたつもりではありますけれども，オンライン会議とか，もう業者さんの，もしくは従業員さんの手助けがないと，なかなか難しく，どうにかやっているような状況で,まだテレワークなんかも職場で環境は整っているとは言えない状況です。
その大きな社会の変革の中で，その流れに乗っていけるんだろうか，取り残されてしまうんじゃないだろうかと,そういう不安が常に心に付きまとっているような状況です。
私だけでなく多くの事業者の皆さん，なんらかの不安を抱えながら生活されていると思うんですけれども，そんな中で私の知り合いの個人事業主の，ある女性は，本当にたくましいなと思うんですけれども，自ら様々な給付金とか補助金とか，そういったものを調べ上げて，この機会に職場の設備を新しく導入して，どんな状況下でも対応できるような，いわば新しい職場環境を整えていきました。
その様子を見聞きして私も大変刺激を受け，どうにか私も頑張らないといけないなと思ったんですけれども，聞いた制度なんかは，もう既に期限が切れていたりということで，残念ながら断念し，自分の努力不足を痛感したところなんですが，今現在，県も市町も，いろいろな不安を安心に変えるための施策を，いろいろ考えて実行してくださっているところだと思います。
もちろんホームページとか広報とか，周知するための方法もいろいろ考えて取り組んでいただいているとは思いますけれども，事業者だけではなく，どのような施策でも，

せっかく準備していただいたんであれば,もっと必要な人にピンポイントで届くような,何か仕組みは作れないものかというのを最近感じております。

例えば現在，私の事務所では，産休明けて復帰してきた従業員が１人いるんですが，初めての育児で，いろいろ不安を感じているようです。

そういった子育て世代であれば，子育て世代に有益な情報がピンポイントで伝われば不安も軽減されるでしょうし,将来への安心とか挑戦につながっていくのかと思います。

そのように県民を後押しいただければうれしいかと思います。

それとガラッと話は変わるんですけれども，今日も中学生の皆さんがお二人みえているんですが，熊野町の学校教育について私が感じたことを少しだけ，ちょっとお話しさせていただこうと思います。

今からもう６～７年前ですかね，何十年ぶりかに母校の中学校，熊野中学校なんですが，訪ねました。

もう驚きの連続です。

まず靴とかスリッパとか，かばんをそろえるのは当たり前。

着ベル，掃ベルって分かりますか，授業が始まる前に席に着くとか，掃除のチャイムが鳴る前に掃除場所に行くということですよね，それも当たり前。

授業の開始と最後にあいさつは４秒礼，今もされているそうなんですけれども，それから大きな声であいさつするのも当たり前。

PPG，今PPGですかね，足はぺったん床の上，背筋ピンで，おなかと背中にグー１つ，それを熊野ではPPGと呼んでいるんですけれども，そのPPGも当たり前。

無言清掃，無言移動も当たり前。

文化祭や体育大会では，盛り上がるところは思い切り盛り上がって，聞くべきところはきちんと聞ける，それが決してやらされている感はなくて，主体的に取り組んでいるような様子が本当にうかがえました。

学習規律とか学校生活全般，この落ち着いた生活態度はどうやって身についたんだろうと，本当にすごいなと思いました。

よく聞いてみると熊野町では，これはちょっと後に作られた冊子かもしれないんですけれども，これが熊野町の当たり前として具体的にやるべきことを掲げて，当たり前のことを当たり前にできるように，町内６校全て，町全体で取り組んでいるということでした。

内容がとても具体的なので子供も先生も分かりやすいですし，とても取り組みやすかったんだと思います。

それを粘り強くやり続けた成果で，あのような素晴らしい落ち着いた状況が生まれたのかと感じました。

すみません，時間があれなんですが，教育はすぐには結果が出るものではないと思うんですけれども，いろいろな要素がありますし，これをやれば大丈夫ということはないかと思うんですけれども，やり続けることの大切さ，それを改めて熊野町の学校を見させていただいて感じました。

そのほかにも熊野町では低学年書道科といって，筆の都熊野なので，もう随分前から小学校１～２年生に書道を取り入れて，これもまた落ち着いた学校での生活態度にもつながっているのかと思います。

なかなかちょっと，まとめができなかったんですが以上です。ありがとうございました。

湯 﨑 知 事：　ありがとうございました。

安心をつくっていくためにタイムリーに支援を必要とする人のところに，それが届くようにというお話と，それから教育，この継続の大切さということをお話いただきました。

ありがとうございました。

それでは続きまして民法さんにお願いできますでしょうか。

参加者③

民　　法：　民法です。

よろしくお願いいたします。

私が今，活動している奉仕活動のことを少し話させていただきます。

私は自分に何かできることはないのかと考えたときに,一人の力は小さくても大勢が,

みんなが力を合わせれば世の中の役に立つことができるのではと思い，国際ソロプチミストという，全世界で会員７万人の国際組織である熊野クラブに入会いたしました。
地域社会と世界中の女性と女児の世界向上を願って奉仕活動をしています。
今コロナ禍で思うように活動ができていませんが，毎年，奉仕のための歳入事業としてチャリティーバザー，講演会，コンサート，ゴルフコンペを行っています。
これらの行事で得た資金を熊野町に継続して寄付をさせていただいております。
海外では難民救済，UNHCR協会へ，１人500円ではありますが７万人で3,500万円を義援金として毎年送り続けており，これは私たちの誇りとなっています。
小さな一歩に誇りを持って未来へ歩みたいと思っています。
次に私の家族のことなんですが，私は子供が４人います。
それぞれ結婚し，なぜか熊野町へ４家族とも帰ってまいりました。
別に私たちが希望を強要したわけではないのですが，生まれ育った，住み慣れた，このまちがよかったということなのでしょうか，そう思っています。
みんなが集まれば自分たちの子供たちのこと，０歳から13歳まで９人おりますので，それぞれが関わっている小中学校，保育園，幼稚園，今年，去年２年間，行事等がほとんどありませんでしたが，もうおじいちゃんおばあちゃんは大変さみしい思いをしました，見に行ってやれないということで。
そのほかには医療負担，児童館，学校給食のことなどなど，みんな話が飛び交っています。
みんな，この熊野町が好きだから一生懸命なのだと思っております。
これから先，また孫たちも，この熊野町へ帰ってきたくなるような，そんなまちにしていただきたいと思います。
よろしくお願いいたします，以上です。

湯 﨑 知 事：　ありがとうございました。
ソロプチを通じた国際的な活動と，それから今度は逆に非常にファミリーの，地域で愛していらっしゃるというファミリーの，この地域愛も含めたお話をいただいたと思います。
まちづくりの基本みたいなところではないかと思いました。
ありがとうございます。
それでは続きまして林さん，お願いします。

参加者④

林　　：　日本国広島県安芸郡熊野町，熊野町立熊野東中学校で生徒会長をしております林諒太といいます。
家族や仕事について話していこうと思います。
突然ですが皆さん，家族は好きですか。
僕は家族が大好きです。
いつもおいしいご飯を作ってくれる母，毎日私たちのために働いてくれる父，いつも一緒に遊んでくれる兄弟，みんな大好きです。
僕は今までたくさんの愛情をもらいながら育ってきました。
しかし，世の中には虐待を受けている子供たちもいます。
虐待をなくすためには，まず子供たちに，虐待を受けたときに逃げる勇気を持ってもらいます。
次に親の働く時間を減らします。
日本人の働く時間は他の国と比べても多く，長く，子供と親の関わる時間が少ないと思います。
子供と親が関わる時間を増やすと親子の仲が深まり，僕のような家族が大好きな子供になって幸せな家庭を築くことができ，虐待もなくなっていくと思います。以上です。

湯 﨑 知 事：　ありがとうございました。
家族が大好きというところから，今度は逆に見えてくる課題，今，大きな社会問題である虐待を，どう解決するのかということをお話いただきました。
ありがとうございます。
それでは続いて梶山さん，お願いします。

参加者⑤

梶　　山：　熊野町立熊野中学校生徒会長の梶山成と申します。

僕は防災・減災について話したいと思います。

平成30年の豪雨災害で熊野町は大きな被害を受けました。

また大雨や洪水の警報が出て，学校が臨時休校になることも増えているように感じ，このテーマを選ぶことにしました。

ビジョンにはデジタル技術を活用した情報提供などについて示されていて，僕自身もテレビやスマートフォンで気象警報や避難情報を受け取ったことがあります。

でも僕自身も友人たちも，実際に避難行動を取るというところまでは，なかなかできておらず，一人一人の危機意識がまだまだ足りないと感じています。

以前，学校で避難訓練があったときに，先生から避難行動は空振りでいいのだと聞きました。

僕はその話を聞いて，なるほどと思いましたが，さらに自分自身で考えて，避難行動は本当に必要になるときのための素振りなんじゃないかと思いました。

少しでも危険な状況があれば避難するのが当たり前，近くに大人がいなくても，自分しかいなかったとしても，そう判断し行動できるようになりたいです。

そのために自分で情報を集めることはもちろんですが，まずは学校で防災・減災についてしっかり学び，危機意識を高めたいです。

また被災された方に話を聞いたり，地域の危険な箇所について知ったりすることも大切だと考えています。

そして６月に熊野町に新しい防災センターができると聞いています。

新しい防災センターにどのような機能があるかを知り，中学生の自分が地域のためにできることは何かを考えていきたいと思います。終わります。

湯 﨑 知 事：　ありがとうございました。

防災についてお話をいただきましたが，実際に避難するということが大事だということ，そこにどうしたらいいかという話と，防災教育についてお話をいただいたかと思います。

ありがとうございます。

それでは最後，お待たせをいたしましたけれども，片川さん，それではお願いいたします。

参加者⑥

片　　川：　片川統博と申します。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

最初になりますけれども，このような機会を頂戴いたしましたことを心より感謝申し上げます。

本来ですと弊社代表でございます友岡清三が，この場でお話を申し上げるべきところなんですが,あいにく来場ができかねたものですから,私からトモビオパークならびに,さとの駅につきまして御紹介をしたいと考えております。

その本題に入ります前に，私の自己紹介を簡単にさせていただきます。

私は片川統博と申します。

広島県で生を受けまして，18歳まで安芸郡熊野町でのびのびと育ちました。

その後，東京に出まして仕事等をしていたんですけれども，体を動かすこと，ならびにバラを育てることなどが趣味で，今，活動をしております。

皆様と同様に，故郷をやはり忘れきれなかったということがございまして，ふるさとに戻りまして，育ててくれた恩をいくらかでも返せればと考えておりました，ここ数年でございます，そのような者でございます。

それでは本題に入らせていただきます。

このトモビオパークというものでございますけれども，20年以上前から弊社，友岡清三が自然環境に配慮した社会経済活動を試行錯誤してまいりました。

その実現のために福島県を皮切りに，広島県で取組を行っております。

トモビオパーク，ちょっと意外なネーミングで覚えやすいかも思うんですが，トモビオパークの「トモ」は友達のトモ，そして「ビオ」はフランスでよく使われるそうですがオーガニックを意味するビオという言葉です。

また「パーク」これは公園ですが，自然の中の遊び・学び場という意味，この３つの言葉を重ねてトモビオパークという風に名付けております。
友達と自然の中で遊びながら発見する場というコンセプトで，このパークを運営しております。
新しい世代のための里山パークづくりということでございます。
続きまして全体像をお見せしております。
まず向かって左側上段になりますが,パーク部門というものを赤枠で囲っております。
そして，その下にございますのが農園セクションということになります。
また黄色でお示ししておりますのが「トモビオパークさとの駅」でございます。
今年の３月20日にグランドオープンをしております。
それでは，そのセクションにつきまして，それぞれ簡単に御紹介をさせていただきます。
さとの駅，こちらの方は熊野地域を中心とする産地の直売品，また熊野にもちょっとないような，これまでなかったようなおしゃれなカフェ，あと世界の民芸品などを取り扱った，熊野の新たな観光拠点として成長していきたいと考えて，この３月20日にグランドオープンをしております。
続きまして公園エリアでございます。
ちょっとビジーなスライドで恐縮なんですが，赤枠で囲っておりますのが，こちらが中心的なところになりますけれども野外音楽活動とかできる，そういう自然を生かしたステージになっています。
現在はイベント等も企画しておりまして，今後も親子連れの方々が楽しめるイベント等も，多数企画して運営をしてまいりたいと考えています。
また黄色で囲っておりますところが，これが天然の竹林を生かしたアスレチックになっております。
竹の弾力を生かして，弾むような自然の中で遊んでいただけるような，そういう施設をつくっております。
また緑で左上の方に囲っておりますところは，今年の５月にオープン予定でございますバーベキューエリアでございます。
もちろん皆さんが気にされておられる，ソーシャルディスタンスにも配慮したようなかたちで，オープンをさせていきたいと考えております。
続きまして農園エリアでございます。
体験型の学習の取組ができるようなものということで，農園エリアの方を運営しております。
これは最近行ったタマネギ収穫体験会というものでございます。
大人も子供も，おばあちゃんもおじいちゃんも，世代も問わない楽しい宝探しというテーマに基づきまして，タマネギ収穫を行っていただきました。
向かって左側は兄弟でこのように取っていただくんですが，葉の部分を見ても大きいかどうか分からないんですが，抜いてみると意外と小さかったというようなことがあったりとか，あと右側のお子さま，ご家族連れなんかは，小さなお子さまが取ったぞという感じで，これは笑顔とともに驚きが混じったような，新たな発見をしたような素晴らしい笑顔を想像することができるように，そういう取組を行っております。
そのような施設ですけれども,広島県安芸郡熊野町にもちろん施設があるわけですが,県内各地からアクセス良好な立地でございます。
広島駅から40分，空港から35分，呉駅から約30分でご来園いただくことが可能でございます。
また県道34号線矢野安浦線に面した利便性の高い場所に立地をしております。
町内におきましては熊野町役場，海田警察署熊野交番より６分でアクセスできるということで，公共機関との連携も取りやすいと考えております。
ただしなんですが，呉・黒瀬方面からご来場いただく際には右折がそのままできませんので，ちょっとその点お気をつけいただいて，少し遠回りになりますけれど回っていただければと考えております。
こちらの方が最後のスライドとなります。
トモビオパークさとの駅の経営コンセプトということで御紹介をいたします。
地域循環型の経営を目指す，３つのコンセプトを目指しております。
寄ってみたくなるまち，地産地消による地域経済の健全な循環を促し活性化に貢献す

る，また地域の特性を生かした持続可能な地域社会，ローカルSDGsと勝手に申しておりますけれども，その達成を目指し続けるということをコンセプトとして，運営をしていきたいと考えております。

またトモビオパークの，先ほどお示しした自然，さとの駅で扱う商品で，世界と広島県ならびに安芸郡熊野町をつなげて，熊野町をハブにした地域の活性化をもたらす存在となっていきたいと考えております。

私の方からは以上でございます，ありがとうございました。

湯 﨑 知 事： ありがとうございました。

ビオパークと，それから，さとの駅を活用したまちづくり，観光であるとか，それに伴うまちづくり，そしてもちろん循環型経済という，SDGsとか環境に配慮したかたちで進めていく，そういったお話をいただきました。

ありがとうございました。

皆様，一通り発表いただきまして本当にありがとうございました。

それぞれ本当に皆さんがお持ちの視点，問題意識というのを共有していただいたかと思います。

今日は防災の話も幾つかあったんですけれども，これはやはり安心につながるという意味で，防災というのは基礎の，基本のところかと思っておりますが，田中さんからは，その観点から，やはり事実に基づくとか現場に基づく，それが重要じゃないかってお話をいただきまして，これは本当に我々もそうだと思います。

例えばビジョンというような計画は，どうしても非常に抽象的になりがちなんですね。

それは全体を，なんといいますか，カバーしていくというか，防災にしても仕組みだとか，そういうものをカバーしていくので，どうしても抽象的なものなんですが，それを実際の機能するものというか，ワークするものにしていくためには，現実に沿った，現実に則した，事実に則したことを取り組まなければいけないということを，改めて教えていただいたような気がいたします。

ハザードマップも理解してもらえなければ，ないのと同じだという，そういったようなお話もありました。

本当に皆さんが実際に行動できるような防災・減災対策というのを我々も心砕いてまいりたいと思いますし，防災については梶山君もお話をいただきました。

素振りというのはいいですね，素振りって要するに練習になるということですよね。

素振りをしないで，いきなりヒットは打てないという，そういう，野球でも素振りをするしゴルフでも素振りをするし，何回振ったかというのが，いいヒットとかショットにつながるという，それを考えると素晴らしい考え方だなと思いました。

ここでも，というか，梶山さんも学校での防災・減災の学びをしたいという風に言っていただきましたけれども，まさにこれも人材育成ということで，これについては田中さんも人材育成を進めるというのが，継続をする上で重要だというご指摘もいただきました。

本当に我々もそのとおりだと思います。

人材育成というのは本当にいろいろな局面で，局面というかいろいろな分野で本当にそれぞれ必要だということを，やはり改めて感じたところであります。

防災としては今，広島県では，災害死ゼロを目指して「みんなで減災」というのをやっているんですけれども，なんか紙があったか，ここに１枚チラシをお配りしているの？ ない？　そうですか，ごめんなさい，僕の手元にだけあるみたいですけれども，５つの我々の目標点あって，知る，察知する。

知るというのは危険な，何が危険かとか，そういったことを知るという，地域の危険とか，そういうことを知る。

察知するというのは，災害が起こりそうだということを察知する，これは天気の情報だとか雨がどれぐらい降っているかとか，そういった情報ですよね。

それから，それに基づいて行動する，実際に避難する，避難できないと，やはり最後は効果がないということで，行動する。

それから学ぶ，備えるというのがあって，学んで，しっかりと災害に備える，こういったことを目指してやっています。

それから佛圓さんには，安心というのは重要だけれども，ここもやはり実際に施策をやっていても，それがきちんと届かないといけないというお話をいただいたと思います。

これも計画を作るというところでは，なかなかそこまでは書ききれないわけですけれ

ども，それを実行する上で，どんなにいい政策があっても，それが届かなければ，これもないのと同じ，ハザードマップは理解できなければないのと同じというのと，同じだという風に我々も思います。

まさにピンポイントに必要な人のところに届ける。

これは実はビジョンの中にはあまり書いていませんけれども，我々，こういったことを進めていく上でマーケティングというのが非常に重要だと思っています。

つまり施策の対象は誰なんだろうと，その人に届けるためにはどんなことが必要なんだろう，実際に届くためには，また何が必要なんだろうということを，しっかりと考えて施策展開をするということですけれども，そういったことを進めていきたい，計画を実行する上で，そういった考えもしっかりと踏まえて，まさに効果が出るような施策を考えたいと思います。

教育についてもお話をいただきました。

今，我々「学びの変革」というのをやっていまして，子供たちが一人一人自ら考えて行動することができる，そういったことを目指していっています。

熊野町では主体的に，今の，いろいろ御紹介いただいた記述について取り組んでもらっているということで，まさになぜこういうことをやっているのかということも含めて考えて，行動できるようになってくれるといいなと思い，我々もそういう風に取り組んでいきたいと思います。

それから民法さんには，この熊野愛ということをお話しいただいたかと思うんですけれども，世界に対する愛と，それから熊野愛という，この両端というか，本当に足元から世界まで素晴らしいなと思ったんですが，やはりそれぞれが誇りを持って，まちのことを好きなので，やはり戻ってきてくれるということじゃないかと思います。

我々，この誇りと言っているのは，まさにそういうことをつくっていって，広島に，いったん出たとしても戻ってきてくれる，あるいはIターンというの，ありますよね，広島とはゆかりもなかったんだけれども，広島っていいねという風に思ってもらう，そのためにもやはり我々自身が誇りを持つ，愛着を持つ，それが大事だと思いますので，先ほど御紹介した誇りの高まりとか，あるいは「ひろしまブランド」そういったものをしっかりとつくって，多くの人がそうやって戻ってきて，みんなでわいわい，こんなことがある，あんなことがあるって，いろいろな町の課題だとか地域のことについてお話しされるというお話もありました。

それもまさに愛が表れていることだと思いますので，そういった議論ができるように我々もしていきたいと思います。

それから林さんは虐待のお話をしてもらいましたけれども，これについても，このビジョンの中で，やはり子供たち一人一人が自らの力を発揮することができる社会を，つくっていかなければいけないという風に考えているわけですけれども，そのベースは，やはり子供たちが安心して育っていくということが大事でありまして，虐待，いろいろな背景があって虐待というの,起きていくわけですけれども,県の取組の方向としては，うちは今AIを活用して，いろいろな虐待が起きる可能性があるサインというの，いろいろなところに出てきますので，そういったサインをしっかりと捉えて未然にそれを防止していく。

あるいは，そもそもネウボラというのを先ほどちょっと御紹介しましたけれども，子育てに対する不安だとか，あるいはどう子育てしていったらいいのかって分からないというようなことが,そういったことにつながっていっているということもありますので，しっかりと地域で見守ってもらっているということをつくるような，ネウボラという拠点，それを進めて，虐待なども本当にゼロにしていきたいと思っています。

そして片川さん，今のビオパーク，それから，さとの駅の取組，御紹介いただきました。

まさに熊野の特長を捉えているというか,自然もあるし,でもすごくまちからも近い，いろいろなところからここに来やすい，それを活用して人を呼び込んで活力を生んでいくという，適散・適集のモデルみたいな話ですよね。

本当に我々もうれしく思うわけでありますけれども，それが今の時代のテーマである環境だとかSDGsといったテーマで，それをまた考えることができるということで，次の時代に我々も，この計画の中にいろいろと入っていますけれども，取り組むべきことがいっぱい詰まっているなと思いました。

本当にありがとうございます。

というところで，三村町長，もし何かコメントなり，御意見があればお願いできますでしょうか。

三 村 町 長： 今日は知事との懇談ということで，そういった観点から皆さんお話しいただきました。

これは町に対する御意見もかなりあったと思いますので，今日の御意見を参考にしながら進めて，行政なり，まちづくり進めていきたいなと考えております。

１つだけ申し上げます。

今，梶山君，防災センターのことを言われたんですが，この６月５日に熊野東防災センター，完成します。

これは，この間の災害のときに我々が非常に苦労した点があります。

それはペット同伴世帯の問題です。

ペットを，10世帯以上あったと思うんですが，町民体育館の中に避難してもらったんですが非常にトラブルの元になり，またペットの世帯にも非常に不愉快な，不快な環境の中で避難してもらったと，この点を反省しまして防災センター構想ということで，東と中央と，町民会館ね，中央は，西は，くまの・みらい交流館，この３つにペットを同行して，ペット同伴世帯が避難できるように，隔離して避難できるような施設を今年の６月，そして来年の１年後には，くまの・みらい交流館，そして最後の年は町民会館，ここにそれぞれ30匹前後のペット同伴世帯，これを作る構想なんで，ペットを連れられる方，多いんで，安心して避難していただきたいと考えております。

いいですか，知事，以上でございます。

湯 﨑 知 事： ありがとうございました。

それでは，ここからは皆さんで，また議論を進めていければと思いますが，いかがでしょうか，いろいろな視点，いろいろな分野のお話があったんですが，他の方のお話を聞かれて,こんなことを思ったとか,これについてはどうなんでしょうかというような，御意見やご質問あったらお願いしたいと思うんですが,どなたかございますでしょうか。

いかがでしょうか，遠慮せずにおっしゃっていただければと思いますけれど。

片川さん，どうぞ。

片　　川： ありがとうございます。片川でございます。

ちょっと私の発表とは少し離れてしまうんですが，中学校の生徒会長さん方もおっしゃっておられた防災とか虐待というのは,非常に現代において重要なテーマであります。

また私も子供を持つ親として心が痛い部分もあって，やはり褒めて育てるって非常に難しいなと思うんですが，一方でやはり厳しく愛情を持ってやるということも親の責任だとも思っていまして，そこら辺をうまくやれる親の教育というのも必要なんだろうという風に，今日改めて思いました。

これはあくまで感想というかたちになりますけれども非常に，佛圓さんがおっしゃったように，私，東京にずっといたもんですから，たまに熊野に帰ってくると，挨拶してくれるんですね，中学生が見ず知らずの私に。

これは非常に驚きましたし，なんて素晴らしいんだろうと思って，うちの家庭でも推奨しようと思ったんですが，残念ながらうちの家庭では，ちょっと未達成というかたちでございますんで，今後の課題にしていきたいと思いますけれども，ぜひ中学生の方々ならびに我々大人も含めて，そういうところから一歩一歩進めていって，広島県また熊野町を盛り上げていければと考えております。

非常に心が洗われる発表を聞かせていただきましてありがとうございました。

湯 﨑 知 事： ありがとうございます。

どうですか，中学生のお二人，親も教育されなきゃいけないという，皆さんから見たらどうでしょうか。

親教育というか，どういう風に子育ての，やはり長い道のりで，私は何でも今日のテーマに結びつけちゃうんですけれど人材育成，生涯を通じた人材育成という中で，子育てをするというのも，みんな最初は素人なんですよ。

最初から子育てのプロっていなくて，それは当たり前ですよね，子供が産まれて初めて経験することですから,実は親もみんな学びながら子育てをしているというところで，本当にそういう親の人材育成というのが大事なの，実はネウボラというのもそういうのを意識していまして，最初にお子さんを妊娠したところから，実はもう子育てが始まっているということで，どういう風に接していったらいいのかとか，あるいは女性は子供産まれるわけですけれども，男性は子供を産むことはできない。

ただ，どういう風に理解をすればいいのかということを，やはり男性側もしっかりと

理解をしないと,その子育てに対してしっかりと一緒にできないということがあるので,そういうところをネウボラなんかを通じてやっていくということとか，あるいは今，乳幼児教育というのをしっかりと取り組もうということをやっていまして，その中でやはり乳幼児の教育というのは教育機関，保育園とか幼稚園とかが担うということ大事なんですが，やはり家庭でどういう風に子供たちと接していくのかということは，子供の発達にとって非常に重要なことになっているので，それはまさに親教育ということをしていきましょうということで，皆さん御覧になったことあるかもしれませんけれども，すごく分かりやすいですね，漫画にして，マクドナルドとかそういうところで，こういう紙にして実は置いてあったりとか，そういうこともやったりしているんですけれど。

本当にそれぞれの人生の,いろいろなところで学んでいかなきゃいけないという風に,我々は思うところなんですが，ずっとそういう意味ではみんなも学び続けなきゃいけない，学校だけじゃ終わらないんだよね。

ありがとうございました。

今の話も含めて，いかがですか，皆さん何か御意見あったら。

町長，お願いします。

三 村 町 長： 今，今日，中学生２人参加しているんですが，若い世代ということで，ちょっと若いかと思ったんですが２人出てもらいました。

防災に関連すると避難の面で，やはりもう中学校，小学校はちょっと無理な面があるんですが，中学校高学年になったら，２年，３年になれば，親が拒否しても家族を説得する防災教育，これを熊野町は目指していますので，今，今日，教育長来られていますが，防災教育というのに非常に力を入れてやっていただいているんで，将来には，この子たちが大きくなれば避難率も上がる，率先して避難してくれるまちになるだろうということを思っています。

防災教育の面では非常に小中，よくやってくれていますんで，そのことをお伝えいたします。

以上です。

湯 﨑 知 事： ありがとうございます，頼もしいですよね。

本当に中学生ぐらいになったら，親を置いても逃げると，いや，本当に。

おじいちゃんおばあちゃんがいたら,おじいちゃんおばあちゃんだけ連れ出して,「だけ」連れ出してということもないんですけれど，しっかり連れ出してもらって，親が何かちゅうちょしていたら，いや，僕は逃げるからと言って逃げてもらうと，親もきっと逃げてくれるんだと思うんですよね。

どうですか，田中さん，そういう考えは。

田　　中： 災害のあったときのことなんですが，そこの三石が崩れて，どういう情報が流れたかなんですが，あそこへボランティアで，ちょうど休みやったんですよ，みんな，ちょうど金曜，土曜で。

それが全部メールで回って，中学生がいっぱい手伝いに来たんですよ。

ほったら，大型トラックがいっぱい入っていて，とてもじゃないがそんなんできないから，バーッと広がったんですよ。

ちょっと,すぐ行って,でも何を言ったかといったら「ありがとう,よう来てくれた」いうんが，まず第一声。

「こうこうで，ここは駄目なんで，ちょっと別のところで，まず行ってくれ」と,「そこへ応援来たら，また頼むね」って，もう一つ頼んだのは,「これは情報が違うんよいうのを，悪いが皆さんにメール打ってくれ」と。

今，危ないから，ちょっと駄目ですよといったときに，中学生の方，意識は持ってくれて来てくれるんじゃが，またそれがどういうか,「違うんよ」いうの，またやってくれましたね。

知事が言ったように，やはり使い方，やはり私らの年寄りじゃできんこと，やってくれると思って感心したんですよ。

ということで，ああいう意識があるいうのは，ものすごく熊野町の場合，すごいなという感じがしました。

湯 﨑 知 事： ありがとうございます。

熊野の中学生は，どうもしっかりしているぞというのが，なんか今日の結論かという感じがしますけれども，そうやって集まってくれるというのはすごいことですよね。

だから自分のことじゃなくて，本当に人のことのために動いてくれるという。

民法さんがご家族のお話をしていただきましたけれども，そういう子供たちだから，やはり地域も愛してくれていると言うことで，これは伝統だということですかね，しっかりと。

佛圓さんも中学校の様子をお話しいただきましたけれども，やはりしっかりと育っているということじゃないかと思いました。

まさに中学生も社会のために役に立ってくれるということですよね。

今，我々，またここでちょっと強引に計画に結びつけていこうと，今，していますけれども，地域共生社会という考え方があって，やはり地域の，まさにまちづくり，まちづくりは人づくりであるし，お互いが支え合っていく，これは災害においてもそうですし，あるいは虐待みたいなことでもそうですし，あるいは引きこもりとか，いろいろな課題，あるいは高齢者の独居とか，いろいろなまちの課題がある中で，お互いが支え合うということが，とてもこれから必要なことだと思っているんですけれども，それは中学生でもそこに参加できる。

前みたいに災害があったら駆けつけて，そして何か手伝いますという風に言ってくれる，情報間違っていたら，それをまたみんなにきちっと知らせるとか，他の人にはできないことかもしれない，それを自主的にやってくれる，そういったお互いの支え合いというのが非常に重要で,これはなかなか今の時代,難しいことでもあるんですけれども，しっかりとビジョンの中には，そういうことをやらなきゃいけないということも書いてありますが,熊野町ではそれが本当に中学生も参画してやってくれているということで，とても心強い気がいたしました。

ありがとうございます。

どうですか，中学生，さっきから話のネタになっているんだけれど，そういう話を聞いて何か頑張ろうとか，こうだなとか，何か思うことありますか。林君。

林　　：　まだ中学生ですけれど，もう中学生とも言えるので，子供でも災害のときとかは，大人も子供もお互いに支え合って何かを乗り越えていくということが大事だと思うので，子供だからということで行動することをやめて，子供でも何かできることを探して行動しようと思いました。

湯 﨑 知 事：　ありがとうございます。

防災についても本当に行動するというのが最後，鍵なので，その行動するというのが大人になると，かえっていろいろなことを考えて，しない，あるいは防災教育というのを昔はそんなにしっかりとやっていなかったんで，そういう教育を受けていないというようなこともあるかもしれませんから，中学生がそれをリードして行動してくれると，本当に社会全体に貢献するようなことになると思います。

ありがとうございます。梶山君はどうですか，何かありますか。

梶　　山：　さっき田中さんがおっしゃられたようには，何かあったらすぐに駆けつけるとか，中学生ですけれど中学生だからこそできることというのも，防災だけに限らず，いろいろなことでもあると思うので，自分たちで今できることを探して，それをしっかり行動に移していけるようにしていきたいと思います。

湯 﨑 知 事：　素晴らしいですね，本当に，防災に限らず，中学生だからこそできること，中学生でもできること，いろいろなことありますよね。

それを人ごとにしないで自分が一歩前に出て，いろいろな人が巻き込まれていくということもあるかもしれません。

それが実は最初にちょっと申し上げた，実は広島県をかたちづくっているのは県民の皆さんお一人お一人ですよって，まさにそういうことで，中学生のみんなでも自分たちができることということを何かやってみることによって，それが集まると，ほかの大人もそれに影響されていくということもありますよね。

そういうことも含めて，何か行動することによって，さざ波が立っていくというか，他に影響の輪が広がっていく，それが社会を変えていくということじゃないかと思うんで，本当に中学生の皆さんも，頑張るというよりは，ちゅうちょしないで，特に若いときには，むしろあまりいろいろなことを考えずに行動ができるということもあるので，ぜひ，いいと思ったことを行動に移してもらえたらうれしいなと思います。

その他，ございますでしょうか，何か。

佛圓さん，いかがですか，これまでの話の中で。

佛　　圓：　今は中学生のことが話題になっていましたが，さっき梶山さんおっしゃったように，中学生だからできること，そういうのを見つけてやっていきたい，素晴らしい発言だな

と思って聞いていたんですけれど，これは本当に広島県が掲げている教育の，主体的な学びとかコンピテンシーの育成とか，よく最近言われますけれど，まさにそれが備わりつつあるのかと，すごくうれしく聞きました。

あと先ほどから，また熊野に戻ってくるって話があるんですけれど，私，今，司法書士していまして，いろいろ家が建ったら家の登記をしたりということをさせてもらっているんですけれど，仕事にしているんですけれど，本当に熊野は町長さん感じていらっしゃるかどうか分からないですけれど，女性の方が結婚された後，熊野に戻って家を建てるという方が大変多いように思います。

土地があるからかもしれないんですけれど，なんか熊野というのはちょうどいい，熊野のなんか計画にもありましたけれど，ちょうどいいまちなのかなと，住むのに山もあり自然も豊富で，でも学校環境も整っていて買い物も困らず，なんか本当にちょうどいい，暮らしいいまちになっているのか，本当にいったん出た人が戻ってこられるというのを，本当によく仕事の中で関わります。

そういう私も実際，本当は，もう熊野の中の，それも特に東の方の人口の少ない，小学校でも１クラスしかないようなところで育ったんですけれども，私は本当に若いときは都会志向で，外に出たい，出たいで，学生時代は関東におりましたし，でも結局自分が仕事として事務所を開業するのにどうするかといったら，やはり熊野に戻ってきているんですね。

なんで熊野がいいんかって，ちょっとこの会に参加させてもらうに当たって思ったんですけれど，結局，結論が出なかったからお話ししなかったんですけれど，先ほどから出ているような人と人とのつながり，世の中いくら変わっても，やはり変わらない何かがあって，それが人のつながりであったりとか，地元に対する愛着であったりとか，そういったところが，やはり何か引かれる何かがあるのかと思ったりはしました。

ぜひ熊野も広島も，本当にシンボルになるものが多いと思うので，熊野も熊野筆がありますし，それから広島も世界遺産の厳島神社や原爆ドームや，カープもサンフレッチェもあるし，お好み焼きもあるし，挙げたらキリがないんですけれども，本当に県民統合のシンボルじゃないですけれど，我がまち，我が県にはこれがあるぞというのがあるので，ぜひ，その強みを伸ばしていただいて，みんなが広島に戻ってくるような，熊野に戻ってくるような，そんな状況になればうれしいなと思いました。以上です。

湯 﨑 知 事： ありがとうございます。

本当にみんなが誇りに持てるものを，たくさんつくって，それをまたみんなに知ってもらって，広島にまた戻ってきたり，あるいは広島に行こう，あるいは広島に住もうと思っていただけるようにしたいと思います。

最後，民法さん，何かあれば，すみません，振っちゃって，せっかくですので。

民　　法： ありがとうございます，振ってもらってどうしよう。

そんなすごい立派なこと言えないんですですが，どうなんですか，うち。

先ほど佛圓さんが言われたように，うち，次女が本当に都会志向で，思春期は本当に人との関わり，だから声を掛けてもらったり，そういうことがすごく，なんかうっとうしいというか，もう嫌でたまらなかったんですね，関わりたくないって。

でも，いざ自分が，一応はお嫁に出たんですが，いざそれが親になって，なんかのそういう子供に声を掛けてもらったり，皆さんにかわいがってもらったりって，そういうことが懐かしくなったというか，そういうことで熊野に帰ってきたんじゃないかって思います。

長女もそうなんですが，やはりお嫁には出たんですが，本当に旦那さんを連れて２人とも熊野町に帰ってきましたので，やはり何か魅力があったのではないかと思うので，先ほども言わせてもらったように孫たちが，本当，全員がまた熊野町に帰ってきたくなるような，そんなまちにしていただきたいなと思います。以上です，ありがとうございます。

湯 﨑 知 事： ありがとうございます。

やはり小さい頃に経験していることというのは，そのときには気がつかないかもしれないけれども，外に出たりとか，大きくなって大人になって気付くことが，たくさんあるんじゃないかということでしょうかね。

逆に言うと，しっかりと基礎を作るというか，それがとても大事なことなのかと思いました。

町長，良かったですね。人口，こんな。今，だからなんですか，９人でしょ。だから

３人だったのが９人になっているんですよね。３倍増ですよ。
　というか，だから夫になる方もいらっしゃるわけだからですよね。だから，それ入れて９人でしたっけ。長女，次女さんの夫になられる方，ご主人になられる方もいらっしゃるわけですよね。それを入れると，だからもっとになるということですか，人口増は。

民　　法：　そうですね。

湯 﨑 知 事：　人口すごい，すごいですよ，一人で，一人というかお二人で，そういう人口増をもたらしたという，ありがたいですよね，もう本当に。
　ありがとうございました。
　もう時間も過ぎてしまいまして，あっという間に過ぎてしまいましてありがとうございました。
　本当に皆さん，今日は本当に素晴らしい皆さん，熊野を愛しておられるんだということを，すごく実感しました。
　それから，まさに適散・適集なまちだなということも，改めて感じたんですけれど，トモビオパークのこともそうですし，ちょうどいいまちという，みんながある程度，顔も分かるし，便利だし，そんなまちである熊野ということも，改めてよく分かりました。
　今日はカエルの声を背景に，これも適散・適集の証拠だという感じがしながら聞いておりましたけれども，本当に皆さん，今日は御参加いただきましてありがとうございました。
　またウェブで御覧の方も，ずっとお付き合いいただきましてありがとうございました。

閉　　会

司　　会：　皆様，どうもありがとうございました。
　それでは，これをもちまして「ひろしまの未来を語るin熊野」を終了いたします。
　本日は御協力いただきまして誠にありがとうございました。